

実施報告

# 森町立森小学校

\* 学級数 16 \* 児童数 356

支援員学校名	職名	氏名	専門分野
北海道長万部高等学校	教諭	吉田修介	化学

【ねらい】 小学校第5学年「もののとけ方」の単元において、物が水に溶ける量は水の量によって違うことを理解させる効果的な実験の指導方法を学ぶ。

【日時】 11月14日（火）13：30～15：05

【場所】 森小学校理科室

【参加者】 80名

【内容】 ・水に食塩を溶かす実験を効果的に位置付けた学習展開の工夫



## 【本事業の成果を活用した授業の改善】

本校では、支援員から学んだことを踏まえ、少人数グループで効果的に観察・実験を学習過程に位置付けた授業の実践に取り組んだ。

### 1 指導の工夫

- ・「とけたものは水の中にあるか、なくなったか」と二択から予想させることで児童全員が授業に参加できることに配慮して学習意欲の高揚を図った。
- ・実験器具を使用順に渡していくことでグループ間の実践の進度差を解消し、時間を有効的に活用して実験を進めた。
- ・実験・観察の視点やポイントを示し、ノートに結果を記入させることで、考察につながる考えをもたせることができた。
- ・実験・観察を効率的に行うことで、実験結果から「考察」させる場面の時間を確保した。

### 2 授業での児童の様子

- ・実験結果を二択から予想させたことで、児童一人一人が自分の考えをもって授業に取り組むことができた。
- ・実験・観察の視点やポイントを示したことで、児童が実験・観察の結果をノートに記入しやすくなり、交流も意欲的に取り組む様子が見られた。
- ・結果の記入後に最初の予想に戻ることで実験結果からの考察をしっかりと行うことができた。



